

良縁成就・子宝成就（大切な方と良き縁を結ぶ）

法華経方便品第二

譬ひ如に優曇華うぜんげ  
一切皆愛樂いっさいかいあいぎよう  
天人てんにん所希有しよけう  
時時乃一出じじないいつしゆつ  
聞法歡喜讚もんぽうかんぎさん  
乃至な癸一言ほついらごん  
則為已供養そくいはいくよう  
一切三世いっさいさんぜぶつ佛ぶつ  
是人甚希有ぜにんじんけう  
過於優曇華かおうどんげ



譬えば、優曇華の  
一切皆、愛樂し天  
・人の希有にする  
所として時時に乃  
し一たび出ずるが  
如し。  
法を聞いて歡喜し  
讚めて乃至一言を  
も佛に一切三世の  
れ已に一切三世の  
仏を供養するなり。  
是の人、甚だ希有  
なること優曇華に  
過ぎたり。

大意◆この経文は方便品のお言葉で、「法華経の教えに出会うことは三千年に一度だけ咲くという優曇華の花を見ることのように難しい。この得がたい教えを聞き、心から喜び、一言でも語ることは、すべての仏を供養したことになる。そのような人は甚だ希であり優曇華の花以上である。」と述べられていきます。遇いがたき方との出会い、その出会いを尊く思い、感謝の気持ちをもってお互いに敬い、慈しみあえる心の大切さを説かれた文です。